

# 3年の学習と結びつけた地図帳学習

宮城県小学校教諭

## 1 はじめに

地図帳\*が子どもたちの手に渡るのは4年生からです。しかしながら、新学習指導要領においても、3年生での地図活用学習がさらに強調されました。地図帳の導入場面に目を通すと、3年生から指導すべき事項があります。このことをふまえて、3年生からの地図活用学習を進めていき4年生の地図帳の指導につなげていく必要があります。

## 2 3年生の地図活用指導

3年生の地図活用指導は、絵地図づくりから始まります。まず自分たちで地図をつくることで、地図の特性や有用感を作業体験を通して捉えさせます。その際、生活科との関連をはかりながら、「学校のまわりの自分のお気に入りの場所を紹介する」という活動で意欲づけをはかります。また、お気に入りの場所は「どの辺にあるのか」という視点をもたせる必要があります。この視点が、地図により関心をもたせることになります。

次に、ルート別に分かれて探検しながら、気づいたことを白地図に書き入れていきます。その際、五感を働かせて、音やにおいやさわった感じも書き入れていきます。たとえば、ケーキ屋さんの建物を白地図に書き、その上に「あまいおいしそうなおいがした。」と注釈を入れるなどです。

このようにして、できあがったルート別の絵地図を全体の絵地図にまとめあげていくわけですが、よりわかりやすくまとめるにはどうしたらよいかを考えさせます。個々の地図を全体ですりあわせる際、地図記号を統一したらどこに何があるのか

\*本稿では、平成23年度4年生が手にする、平成23年度用「楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版」を用いています。

がわかりやすいということに気づかせます。そこで、地図記号の指導に入ります。同時に地図記号の由来についてもふれることで興味関心を高めます。学校はなぜ「文」なのか、郵便局はなぜ「〒」なのかなどについて考え、その由来について教師の説明を聞きます。

学校のまわりの学習後は、市全体のように学習しますが、おもに教師による地図の提示で学習は進められます。ここでは方位（方向）の学習が必要になってきます。

方位については高学年でも十分に定着していないという現実があります。そこでまず、以下の手立てをとって、四方位をしっかりと理解させます。教室の壁面に方位を示すカードを貼り、常に方位

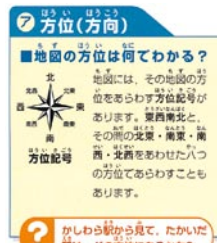
が子どもたちの目にふれるようにします。それからクイズ形式で定着をはかります。「自分の家が学校の北側にある人は？」「学校の南側にはどんな建物がありますか？」「市役所は、学校のどっちの方向にありますか？」などです。子ども同士でクイズを出し合うのもよいでしょう。また、地図には常に東西南北を記入させるようにすることも定着を促します。四方位が十分に定着したところで、同様に八方位の指導も行います。

また、土地の高さについても指導します。

以上の地図活用指導で、市全体の概観を子どもたちは十分に捉えることができます。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.6



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.6

### 3 4年生の地図活用指導

いよいよ地図帳が子どもたちの手に渡されます。最初の子もたちと地図帳の出会いを大切にしたいものです。4年生の社会科、第1時間目に地図活用の指導を行います。まず、「地図帳には何がありますか?」と問いかけ、地図帳にじっくり向かい合わせます。子どもたちから次のような答えが返ってきます。

- ・日本や外国の地図がのっています。
- ・日本全体の地図もあれば、県の地図もあります。
- ・動物や楽器や食べ物があります。
- ・川や湖がのっています。
- ・道路や線路がのっています。
- ・川の長さや山の高さがのっています。等々、地図帳の情報量の多さに子どもたちは気づくはずで

次に、宮城県に注目させます。「宮城県は何ページにのっていますか」と問いかけるといっせいに地図帳をめくり始め、「p.45~46にあります」「p.17にあります」という答えが返ってきますが、ここではp.45~46を開かせます。

ここから、宮城県からさまざまな情報を読み取るのですが、その前に子どもたちの机を北向きに変えます。地図帳の方位と実際の方位を一致させるためです。こうすることで「上の方にある」ではなくて「北の方にある」、「右の方にある」ではなくて「東の方にある」という答え方をさせ、方位の感覚を身につけさせます。具体的には、次のような活動を行います。

- ・栗原市を探そう。 ・栗駒山を探そう。
- ・栗駒山は栗原市からみてどの方位にありますか。
- ・栗原市の東側には何市がありますか。(登米市)
- ・仙台市を探そう。
- ・宮城県と隣の県の境界を指でたどろう。
- ・宮城県の土地の利用は何色が多いかな。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』  
p.45~46

- ・こけしのマークを探そう、何個みつかるかな。
- ・海の近くには、どんなマークがあるかな。
- ・北上川と阿武隈川を海から上流へ指でたどろう。
- ・高速道路や新幹線をどこまでも指でたどろう。

宮城県のようにすをとらえさせた後、いよいよさくいんの指導に入ります。「栗原市の姉妹都市はあきる野市というところですよ。地図帳から探しましょう。」と指示します。さくいんを使わないとまず見つけることはできません。「地図帳のp.8を開きなさい。そこにあきる野市の探し方のヒントがあります」。さくいんを利用してあきる野市を見つけた子どもは「あったー」という歓声をあげます。その後いくつかの都市をさくいんを使って探す活動を行い定着をはかります。

今度は世界に目を向けさせます。「宮城県は世界の国々と友好関係を結んでいます。その国とは、中国、イタリア、アメリカ合衆国です。これらの国々を地図帳から探しなさい。」…以上のような地図の導入指導を行い、地図大好きな子どもたちの育成をめざします。

### 4 おわりに

地図活用指導は、3年生から始まっています。4年生で子どもたちが地図帳を手にする姿をイメージして、3年生で教えておくべき事項を明確にして丁寧に扱っていくようにしたいと思います。